



第 80 号  
 平成27年11月30日 発行  
 編集・発行  
 (一社)新潟県サッカー協会広報委員会

優  
勝

# 全国高等学校サッカー選手権大会 新潟県大会 新潟明訓高等学校



## 第94回全国高校サッカー選手権大会 新潟県大会 試合結果

- 優勝 新潟明訓高等学校
- 準優勝 帝京長岡高等学校
- 第3位 北越高等学校
- 〃 長岡向陵高等学校

11月15日(日) 決勝戦 12:15～  
デンカビッグスワンスタジアム

新潟明訓 (3 - 2) 帝京長岡

### 新潟明訓高等学校

監督 田中 健二

この度、16年ぶりに全国高校サッカー選手権大会に出場する権利を得ることができました。県予選では、プリンスリーグに出場した全てのチームと対戦することとなり、本当に厳しい試合が続きました。決勝戦では、6500人という大観衆の中、すばらしいサッカーをする帝京長岡高校さんと対戦できたことに感謝しています。今年は本県のレベルが非常に高く、優勝したチームは上を目指さなければならぬと考えていました。私たちが幸運にして出場権を得た以上、その責任は重く思います。また、高校によっては、メンバーがぎりぎり出場し、頑張っているチームもあります。様々な思いを感じながら新潟県代表としての誇りと責任を背負い、全ての力を出し切ってきたと思っています。

最後に、2種委員会の方々をはじめ、このような素晴らしい大会の運営に携わって下さったすべての皆様に感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

主将 加藤 潤

今年の新潟県予選では、初戦からとても厳しい試合が続きましたが、今こうして予選を勝ち抜くことができたことを素直に嬉しく思っています。

日頃の練習はもちろん、私生活から隙をつくらぬよう意識して過ごしてきたことで、このような結果ができてきたと思っています。また、部員一人ひとりが自立してプレーすることを意識し、意見をぶつけ合って生まれた協調性は、チームの結束力を高めることができました。個性の強い選手が集まった中で、このようにチームが成長できたことが、優勝できた要因の一つだと考えています。

全国大会では、新潟県のレベルが高いことを証明できるように、「日本一」を目指して全力で挑んでいきます。そして、新潟明訓らしいサッカーを披露したいと思います。

最後に、新潟県の高校サッカーに携わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新潟 3 回戦の壁厚く

### 第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会



第94回全国高校サッカー選手権大会新潟県大会の決勝戦が11月15日にデンカビッグスワンスタジアムにて開かれた。新潟明訓高校と帝京長岡高校との最強世代対決ということもあり、当日は6500人もの観客を集めた中で熱戦が繰り広げられた。両チームともに持ち味を発揮した好ゲームとなり、2-2で迎えた終了間際のお互いの決定機、そして延長突入かと思われた中での劇的な決勝ゴールなど、最後まで見る者の心震わせるすばらしい戦いであった。新潟明訓高校には新潟県代表として全国大会でもすばらしいゲームを見せてほしい。

全国大会  
 1回戦 12月31日(木) vs那覇西高校(沖縄県)  
 フクダ電子アリーナにて12:05 Kickoff

第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会3回戦は10月14日デンカビッグスワンにJ2の徳島ヴォルティスを迎え開催されました。我々がアルビレックス新潟は連戦の中で主力を欠きながらも多くの時間を敵陣内でプレーしました。しかし、ミスが多く前半に先制されました。一度は追いついたものの後半30分に決勝点を奪われ1対2で敗れました。

アルビレックス新潟にとって3回戦の壁は厚く5年連続の敗退となりました。

本大会は皆様のご支援ご協力により無事に終了することができました。厚く御礼を申し上げますとともに次回大会はこの3回戦の壁を突き破ることを心から期待するものです。

### ヤマザキナビスコカップ4強

アルビレックス新潟は準々決勝で強敵浦和レッズを相手に2戦1勝1敗とし得点差で勝利しチーム史上初のナビスコカップベスト4となりました。準決勝はガンバ大阪に先勝したものの2戦目を落とし得点差で下回り敗退しました。しかし、若い力とベテランの融合は来期に続く希望溢れる戦いでした。

# 紀の国わかやま国体報告

技術委員会 委員長 丸山 有一

9月27日から10月1日の日程で「紀の国わかやま国体」が開催された。本県からは4年ぶりに成年男子と9年連続で少年が出場した。以下、結果及び今後の課題等について報告させていただきます。また、試合終了まで続き、後述の課題等について報告させていただきます。また、試合終了まで続き、後述の課題等について報告させていただきます。



県が本国体で上位進出するためには、他のリーグ戦や大会との日程調整を含め強化するためのスケジュールの確保が大きな課題として感じられました。次に少年ですが、昨年度初のベスト4に進出し第2シード、2回戦からの出場となりました。相手は北海道選抜、前半はボールを支配でき、中央からサイドをうまく使った攻撃で1点を先制しました。しかし後半怪我による選手交代と相手が見ても相手のレベルが1枚上だったと思われ、修正できないまま同点、さらに逆転を許してしまい、2対1で惜敗しました。先制点を奪い、主導権を握っていただけに悔しくもありましたが、ゲーム全体を選手、スタッフがどうデザインし、状況の中でいかに臨機応変に対応していくかを観て感じて判断し実行していくことに大きな課題があると感じました。今年度は2種別とも思ったような成績を残すことが出来ませんでした。今年度は2種別とも思ったような成績を残すことが出来ませんでした。

10月9日(金)から10月12日(月祝)までの4日間、石川県能登島にて2015年度ナショナルトレセンU-12北信越が開催されました。参加選手38名中、(内FP32名、GK6名)新潟県からは12名参加(FP11名、GK1名北信越最多)し、レベルの高い選手たちと技術を磨く貴重な機会となりました。スケジュールは午前午後2部構成でトレーニングを行い、夜はミーティングやサッカーにかかわる知識向上の講義が行われ、サッカー

## 平成28年度全国シニア(50歳以上)サッカー選手権大会

新潟県予選会について

新潟県シニア連盟 明間 寛治



シニア連盟は、4つの年代別のカテゴリーで4月から10月の間にシニアリーグを運営しています。50歳以上のリーグ戦は現在6チームが参加しています。全国シニアサッカー選手権大会新潟県予選会は、7チームがエントリーし、10月4日と18日の両日、新発田中央公園人工芝グラウンドにて一発勝負のトーナメント方式で行われました。

幸い天候に恵まれ、大会運営はスムーズに進行され、どの試合も1点を争う好ゲームで、全6試合中、5試合が1点差以内の結果となりました。決勝戦は、前年度優勝チームのSF長岡50とM・sea新潟との対決となり、前半にM・sea新潟が右サイドからの攻撃で1点を先取りし、SF長岡50が後半に猛追するものの試合終了のホイッスルが鳴り、SF長岡50の連覇が阻止されませんでした。50歳以上の大会です。自由な交代が認められた前後半20分ハーフの戦いですが、ファイティングスピリットは日本代表と同じレベルだと自負しています。



サッカー選手権の出場をかけた北信越大会は、平成28年4月に福井県にて行われますが、新潟県代表のM・sea新潟は、是非とも全国大会の切符を手にして欲しいと思います。今年の4月には、北信越大会を当県にて開きます。サラリーマン

新潟県予選会では、北信越の選手は、北信越の中でもトップクラスの選手が多いため余裕を持ってプレーしているように感じました。しかしフューチャープログラム(以下FP)から見ると、FPについては、周りをよく観て判断しながらプレーすることは非常に重要なポイントです。GKについてはFPのころよりも積極性が目立ちました。また、遠くにいる見方が前をむけるよう遠い脚に正確なパスが出せていたことが、ゴールに向かい失敗する可

## 2015年度 ナショナルトレセンU-12北信越

新潟県サッカー協会 4種技術委員長 星 直樹

10月9日(金)から10月12日(月祝)までの4日間、石川県能登島にて2015年度ナショナルトレセンU-12北信越が開催されました。

10月9日(金)から10月12日(月祝)までの4日間、石川県能登島にて2015年度ナショナルトレセンU-12北信越が開催されました。参加選手38名中、(内FP32名、GK6名)新潟県からは12名参加(FP11名、GK1名北信越最多)し、レベルの高い選手たちと技術を磨く貴重な機会となりました。スケジュールは午前午後2部構成でトレーニングを行い、夜はミーティングやサッカーにかかわる知識向上の講義が行われ、サッカー

10月9日(金)から10月12日(月祝)までの4日間、石川県能登島にて2015年度ナショナルトレセンU-12北信越が開催されました。参加選手38名中、(内FP32名、GK6名)新潟県からは12名参加(FP11名、GK1名北信越最多)し、レベルの高い選手たちと技術を磨く貴重な機会となりました。スケジュールは午前午後2部構成でトレーニングを行い、夜はミーティングやサッカーにかかわる知識向上の講義が行われ、サッカー

を引退してもシニアサッカーには引退はありません。ちなみに、同日に開催された60歳以上の新潟県予選会も白熱したものとなりました。もはや元気な老



## 高円宮杯U-18プリンスリーグ2015

プリンスリーグ北信越

- 1位 アルビレックス新潟U-18
  - 2位 新潟明訓高校
  - 3位 富山第一高校
  - 4位 星稜高校
  - 5位 北越高校
  - 6位 新潟西高校
  - 7位 帝京長岡高校
  - 8位 遊学館高校
  - 9位 新潟工業高校
  - 10位 創造学園高校
- 参入戦 11月23日(月) 能登島サッカー場  
長岡向陵高校 3-1 高岡第一高校

# 新潟

## 2015・新潟市フットボールデー開催！！

新潟市サッカー協会 理事長 佐々木 篤 行

9月6日、小雨の降る中、鳥屋野運動公園球技場におきまして『2015・フットボールデー』を開催致しました。

今回、新潟市内のレディースチーム対抗戦並びに、少年チーム・父兄チーム合同でサッカーフェスティバル開催となりました。

レディース対抗戦は各種大会参加をしている、凄技レディースの方々の参加を募り、多数の『サッカーファミリー』よりご賛同いただき開催することができ、日頃の練習成果を発揮していただきました。

試合中は、レディースとは思えないほどの激しい接触プレーや、コミカルなプレーも見られました。ピッチ上は若干ウェット状態でしたが、人工芝なので泥んこになる事もなく、ママさんプレーヤーの方にとっては、かなり嬉しい思い切ったプレーも存分にでき、とても嬉しそうでした。

当日は、レディースと同時に、ジュニア・ジュニアユース・ユース・シニアの選手が年齢の枠をこえて対戦するなど多くの試合が行われ、こちらにもスピード感溢れるパスワーク・ドリブル突破?????……等、素晴らしいプレーが数多く見られました。

保護者の方々、チーム監督・コーチの方々も対戦に加わり、数多くボールに触れあう事ができ、ピッチにたつてフレンドリーマッチ戦を楽しんでいました。

9月6日の『2015・フットボールデー』は、皆様にとって『サッカーファミリー』である事を感じていただき、この大会を継続しファミリーの輪を一層広げていき、「soccer」を通じてキッズ～シニア迄、各カテゴリーの壁がなく交流の場を提供していけるよう、今後も意義ある大会にしていきたいと思っております。

尚、当日参加していただいたチームの皆様、運営にご協力いただいた関係者各位には、心より感謝し御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

# 2015 フットボールデー

# 上越

## フットボールデーを開催して

上越地区理事長 室橋 丈 司

県内外の小学生（5年生以下）が熱戦を繰り広げる「2015年度上越フットボールデー少年サッカー大会」（八人制）を9月5日・6日に新井運動公園にて開催しました。

大会には24チームが参加し1次リーグ・2次リーグを経て、順位決定戦を戦いました。12チームの県外チームを招待し、約500名の選手がグラウンドを駆け回りました。

決勝は、江南南（埼玉）と高岡（富山）が激突。前半から江南南の圧倒的試合展開となりましたが、粘る高岡を自力に勝る江南南が二〇で退けました。

2日間とも天候に恵まれた大会は、子どもたちにとって忘れられない大切な思い出となったと確信しています。また、来年六年生となり、心も体も技術も大きく成長した姿に出会えることを期待しています。

日程調整出来なく上越地区で不参加のチームもありましたが、参加していただいたチームの皆さん、運営に協力いただいた上越地区の関係各位には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



# 中越

## 「JFAフットボールデー 2015 in 十日町市」を開催して

中越地区サッカー協会 副会長 若山 裕  
(十日町市サッカー協会)

9月13日（日）にクロアチアピッチにて「JFAフットボールデー 2015 in 十日町市」を開催致しました。

サッカーを見たことあるけどボールを蹴ったことのない人や、学生時代に少しだけプレーをした方々など、サッカーを「する人」「観る人」「支える人」そして「応援する人」も対象とし親子89名の参加者でキックオフです。

サブタイトル「なでしこキッズサッカースクール」と称し、親子でサッカーを通してスポーツの楽しさを知ってもらう内容は、手つなぎサッカーや複数ゴールでの試合でしっかりと親子の絆を確認していました。親子以外でのチーム編成は、大人と子供がしっかりと手を握り合い、お互いに思いやる姿は素敵な光景でした。世界基準クロアチアピッチの天然芝の感触を確かめるように全員で寝転んだり、子供チーム対親チームの変則ルールで対抗戦を行い、負けたチームは勝ったチームに対し賞賛をしっかりと贈り、勝者側はみんなでハイタッチし感謝の意を表していました。

全員で大きな輪をつくり全員でハイタッチをし、満面の笑みでスクールは終了しました。

そして恒例となりました参加者全員でパーベキューを行い、一日の感動や好プレー・珍プレーを思い出しながら語りあい、来年も是非開催を望む声が多くありましたので、来年度に向けて多くの方々のご協力を得ながら開催できればと思っております。



# 下越

下越地区サッカー協会 理事長 国枝 晴 隆

本年のフットボールデーでは、新発田地区、新発田カルチャーセンターで親子ふれあいサッカーを行いました。

親子を含め200名近くの参加があり、当日は天候にも恵まれ大変有意義な、サッカーイベントになりました。

サッカーボールを追いかける、子ども達の笑顔が大変印象的でした。

これからも、選手・審判・指導者という登録者だけでなく、愛好者や多くのサポーターを含めたサッカーファミリーへ、サッカー環境を充実していくことに取り組んでいきたいと思っております。そして、更なるサッカーファミリー人口の増加、そして下越地区全体のサッカーレベルの向上を目的に更なる飛躍をめざして、努力、邁進していく所存であります。

最後に

（一社）新潟県サッカー協会が掲げる「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」という理念にもう一度立ち返り、明確な目標をもって進んでまいります。

今後とも下越地区サッカー協会をご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



### ●●スマイル&チャレンジ●●

当協会にご支援いただいている法人各社

TONY テレビ新潟 BSN新潟放送 新潟日報  
東北電力 総合生協 新潟県信用基金協会  
2007年宣言の実現のため諸事業に取り組んでいます!!

### 東日本大震災 復興支援

# がんばろうニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!

地域貢献と

女子サッカーの普及活動

下越女子委員長 板垣 雄平

下越地区は、アルビレックス新潟レディースと、JAPANAサッカーカレッジレディースで地域貢献活動と女子サッカーの普及を目的としたイベントを運営して参りました。



アルビレックス新潟レディースでは、なでしこ1部リーグのホームゲームにて、サッカー教室と試合観戦できるイベントを企画して頂きました。サッカー教室では、レディース選手と子どもたちが触れ合いながらサッカーを楽しんで頂き、サッカー教室後には実際のプレーを生で観戦して頂きました。JAPANAサッカーカレッジレディースでは、9月に、ママ・レディースフェスティバル、10月には、親子ふれあいサッカー

区として、地域貢献と女子サッカーの普及を目的とした活動を定期的に開催して参ります。来る、年明け、2016年2月には下越レディースフェスティバルとして、サッカー教室などのイベントを開催いたします。下越地区のみならず、参加を希望される子供たちがいるところ、是非とも、ご参加頂きたいと思っております。

キヤノン ガールズ・エイト

女子委員会 緒方 牧

11月21日(土) 22日(日)、新潟聖籠スポーツセンターアルビレックスにて、JFA主催、特別協賛キヤノン株式会社様、協賛大塚製薬株式会社様のもと、北信越ガールズ・エイトが開催されました。JFA関係者様並びにナショナルトレセンコーチの皆様、また特別協賛頂きましたキヤノン株式会社様、特別協賛頂きました大塚製薬株式会社様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

北信越ガールズ・エイトの出場チームは8チーム。長野県、新潟県、石川県から各2チーム、富山県、福井県から各1チームの出場となっています。大会形式は初日4チーム2ブロックの予選リーグ。2日目は4チーム上位リーグ、下位リーグの順位リーグを行います。順位を決定する1試合3クォーター制。初日の第1試合は、まだ各チーム、各選手に緊張が見られ、プレーと張り詰められた空気が中での試合が見られましたが、得点した瞬間、その張り詰められた緊張が解けたかのようにワーッと盛り上がり、その後は子供たちの元気な声が、また



キヤノンガールズ・エイト(U-12)サッカー大会

場、大塚製薬株式会社様より水分と栄養のレクチャーを行って頂き、またキヤノン株式会社様からは、その日に撮っていた試合の写真映像にして流して頂き、またリスパクトについてのレクチャーを行って頂きました。

2日目は順位リーグ結果、優勝は長野県、長野県U-12女子トレセン「レッド」。準優勝は福井県、福井県。3位は新潟県、

この原稿を書いているのはまだ十月。結果はどうなっているのでしょうか? いずれにせよ大変濃厚な1年で、質のいいゲームが多かった。初参加の僕達には、とても刺激的でした。折角の環境ですので、リーグ戦の勝利へのモチベーションを選手に活かしてあげたいと思います。この年代は自らがプレーするとはどう言う事かを学ぶ大切な時期と感ずります。日頃から「自分で結果を受け入れられるなら何をやる

北信越リーグ初参加

上越春日フットボールクラブ 代表 米田 知弘

でも構わないよ。」と選手に話しています。選手にはゲームの流れを読み、今何がいいプレーなのか、自分の意志を持つ事を求め続けました。サッカーの内容はまだまだ未熟なレベルですが、自ら決めたいが故に全力でプレーする様子は、観ている人から清々しいものがありました。日常のトレーニングにも大きく変化が見られました。欲張って県2部リーグにも参加させて頂いていることもあり、北信越に登録した選手は僅か17名。開幕当初



NiFA マスタープラン 2007 スタート

(一社)新潟県サッカー協会は、英語名: Niigata Football Association の略称を従来の NFA から NiFA に変更し、これを「ニファ」と読みます。また、新たなスタートを切る NiFA を象徴するシンボルマークを作成。4本の翼は新潟、上越、中越、下越の4地区協会を表し、新潟県の形も示しています。そして4地区協会の飛躍による新たな新潟のサッカーを GOAL に向かうサッカーボールで表現しました。さらに濃いブルーは新潟の空と海、地域に根ざした NiFA を表しています。NiFA はさまざまなシーンでこのシンボルマークを使用していきます。



- NiFA の理念
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。
NiFA のビジョン
1.新潟県におけるサッカーの普及に努め、全ての県民がサッカーに親しむ環境を作り上げる。
2.新潟県を代表するチームが日本のトップレベルで活躍できるようサッカーの強化に努め、新潟県出身プレーヤーが国内外で活躍することで、県民に勇気・希望・感動をもたらす。
3.常にフェアプレーの精神を持ち、国内外の人々との友好を深め、社会に貢献する。
NiFA の目標 2015
2015年には、健全でゆるぎない組織となり、6つの目標を達成する。
(1)新潟県内のサッカーファミリーが8万人となる。
(2)Jリーグ、Lリーグに新潟県出身プレーヤーを合計で10人以上輩出し、日本代表フル代表、年代別代表等に選出される選手を輩出する。
(3)各カテゴリーの全国大会において、新潟県チームのいずれかが常にベスト4以上の成績を修める。
(4)JFLに加盟するチームを育成する。
(5)各カテゴリーの全国大会、国際試合を誘致、運営する。
NiFA の目標 2050
2050年に向けて、組織基盤をさらに強固なものとし、2050年までに以下の目標を達成する。
(1)新潟県内のサッカーファミリーが15万人となる。
(2)Jリーグ、Lリーグに新潟県出身プレーヤーが合計10人以上存在し続け、日本代表フル代表、年代別代表等に選出される選手を輩出し続ける。
(3)日本でFIFAワールドカップが開催される際には、サッカー専用スタジアムで試合を開催する。



秋の叙勲のお知らせ
11月3日に秋の叙勲の受章者が発表され、県サッカー協会から顧問の星野陸夫氏(元県サッカー協会副会長・元県体育協会常務理事)が旭日双光章を受章されました。
平成28年新春・講話とトークショー
期日 平成28年1月17日(日)
会場 新潟グランドホテル
一、講話 14時予定
二、トークショー 15時予定
三、今期報告と来期の抱負 16時予定
四、新年会 16時30分

# 第13回 しんきんカップ

# 第23回 新津カップ

○しんきんカップ第13回新潟県キッズサッカー大会決勝トーナメント  
 平成27年9月21日(月・祝)、22日(火・祝)  
 デンカビッグスワンスタジアム・新潟県スポーツ公園  
 決勝 TOYOSAKA SC U-12 2-1 アルビレックス新潟U-12  
 優勝 TOYOSAKA SC U-12  
 準優勝 アルビレックス新潟U-12  
 第3位 小千谷SC U-12、長岡JYFC U-12

○第23回新津カップ新潟県少年サッカー選手権大会 決勝トーナメント  
 平成27年10月24日(土)、25日(日)  
 新津金屋運動広場・阿賀野川水辺プラザ  
 決勝 FC大和ジュニオルス 2-1 アルビレックス新潟U-12  
 優勝 FC大和ジュニオルス  
 準優勝 アルビレックス新潟U-12  
 第3位 長岡JYFC U-12、グランセナ新潟FCジュニア

**しんきんカップを終えて**  
 TOYOSAKA SC U-12 監督 **風間 密樹**  
 去る9月21日、22日に行われました、しんきんカップ第13回新潟県キッズサッカー大会におきまして優勝することができました。この場をお借りしまして関係者の皆様、保護者の皆様に感謝申し上げます。  
 TOYOSAKA SC U-12は新潟市東地区にある町クラブです。選手のレベルも様々で、同地区には豪チームも多数ある中、なかなか良い成績を残すことができません。

**しんきんカップ優勝**  
 TOYOSAKA SC U-12 主将 **田中 武蔵**  
 僕達TOYOSAKA SCは、しんきんカップで優勝することができました。日々の練習からチーム全体で目標にできたことでした。それまでの地区予選では、緊張して自分達のサッカーがでなかった試合も多かったですが、チームみんなの力で県大会に進むことができました。



「絶対ビッグスワンで試合するぞ!」という強い気持ちでプレイングをしました。二日目は、三試合と一点差の厳しい試合でした。決勝で試合終了の笛が鳴った瞬間は、みんなが涙を流していました。これから大会でも優勝したいと思っています。

**第二十三回新津カップ**  
 FC大和ジュニオルス 監督 **清水 昭博**  
 大会前、「何とかベスト4までは」と考えていました。それだけに予選リーグを勝ち上がったときは「ほっ」としました。決勝トーナメントの初戦が一番重要なゲームでした。夏に競り負けているチームだけに、メンタル面では相手が有利、予想通り、ボール際の対一で勝ちきれず、押されながらも失点せずに前半を終えることができた。ハーフタイムでは「無失点なら一点で勝てる、全員が守備の意識を持ちながら、

一瞬を見逃さず一点を取ろう」と話したところ、珍しく真顔で聞いてくれました。選手たちもくるしかつたんでしょね。そんなイメージ通りのゲームでした。この勢いだけで準決勝は無難に、決勝では競り勝つことができた。選手達がついてくる武器(個性)が十分に発揮出来た大会でした。今後も「期待され、期待に応えられる選手」になってもらいたいと思います。日頃練習試合に誘ってくださる各チームの皆様、今後ともよろしくお願ひします。



追いつけ! 追いつけ!!  
 FC大和ジュニオルス 監督 **種村 風汰**  
 ぼく達FC大和の5年生は、4年生の時の大きな大会で、二つともあと一歩のところまで、タイトルを取る事が出来ませんでした。この新津カップ5年生・6年生大会の両方で優勝しています。だからぼくもチーム一丸となり優勝を目指してきました。県大会では、「自分の得意なプレーを一杯やろう!」と話しています。来年3月のチビリンピック北信越大会で、FC大和の合言葉「堂々と」で、兄を追って定着してきました。

この大会には、二つの特長がある。一つは、デンカビッグスワンと隣接する県スポーツ公園での大会開催としてビッグスワンでのプレーを目指すという点である。二つ目は参加したチームは予選で敗退しても二日目にフレンドリーマッチを組み、レベルに応じた試合を体験できること。さらに参加した全員で決勝戦を観戦し、自分たちと戦ったチームの応援をすることである。

「しんきんカップ」は、U-10といえればキッズの年代であるが、ゴールデンエイジの入り口ということでサッカーへの動機づけとして最適な状況作りができていくこと、大会を盛り上げよう。大会を盛り上げよう。大会を盛り上げよう。

「しんきんカップ第十三回四年生大会」と「第二十三回新津カップ五年生大会」の総括  
 第四種委員長 石川 正記



# 第39回全日本少年サッカー大会 新潟県大会

## 第39回全日本少年サッカー選手権大会 新潟県大会 試合結果

優勝 グランセナ新潟FC ジュニアA  
 準優勝 k F 3  
 第3位 ジェス新潟東 SC  
 第4位 Reiz 長岡 FC

11月8日(日) 決勝戦 長岡ニュータウン  
 グランセナ新潟FC ジュニアA 3-0 k F 3



今年から全少のカレンダーや県大会のレギュレーションも変わりました。県大会が秋に開催されることでパワーやスピードのある選手が多くいたという印象があります。そういった選手を抑えるためにコンパクト・コレクティブで運動した守備を目指しました。県大会8試合3失点という数字は上手く守れてい

たのではないかと思います。また、1回戦からのトーナメントは選手達のメンタル的な部分で大きな負担となりました。プレッシャーなどでコンディションを落としてしまう選手も現れ、試合当日までメンバーが揃わな

い時もありました。ただ、そこを乗り越えられたのは、これまでの経験でした。8月に選手は世界大会の大舞台を経験しました。判断スピード、プレースピード、正確な技術、球際の激しさなど多くのことを学びました。このハイレベルを経験したことがゲーム運びであったり、試合でのメンタルの部分に影響したことは間違いありません。決勝戦では、今期のベストゲームをすることが出来ました。

今大会の結果は、今までに対戦頂いたチームの方々の陰だと思えます。その経験値が選手達の力となったこととは間違いありません。指導者はファシリテーターであり、主役は選手であると私は考えます。様々な苦労を乗り越えた選手たちに感謝です。

新潟県では新潟県154チームの代表としてグランセナ旋風を巻き起こしたいと思えます。全国大会では新潟県154チームの中の1位になって良かったです。全少で全国へ行くことは小さい頃からの夢だったのでとても嬉しいです。ノーシードから勝ち上がったことはチームのレベルアップに繋がりました。優勝するまでに8回戦しなければいけませんでした。決勝を8回戦う気持ちで試合の立ち上がりや終了間際を意識して試合を行いました。こうやって優勝できたのは、8月にワールドチャレンジに出場したおかげで、自分達の通用しないところ、通用するところがわかりました。1勝も出来なかったことはとても悔しかったですが、通用するところもあり、自信にもなりました。このワールドチャレンジの経験があったから決勝でチャンスをものし

て点を決められたのだと思えます。こうやって頑張れたのは、家族・コーチ・チームメイトの支えや応援があったからです。感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思えます。

とほ間違いありません。指導者はファシリテーターであり、主役は選手であると私は考えます。様々な苦労を乗り越えた選手たちに感謝です。

主将 山本 倅生  
 新潟県で154チームの中の1位になって良かったです。全少で全国へ行くことは小さい頃からの夢だったのでとても嬉しいです。ノーシードから勝ち上がったことはチームのレベルアップに繋がりました。優勝するまでに8回戦しなければいけませんでした。決勝を8回戦う気持ちで試合の立ち上がりや終了間際を意識して試合を行いました。こうやって優勝できたのは、8月にワールドチャレンジに出場したおかげで、自分達の通用しないところ、通用するところがわかりました。1勝も出来なかったことはとても悔しかったですが、通用するところもあり、自信にもなりました。このワールドチャレンジの経験があったから決勝でチャンスをものし

て点を決められたのだと思えます。こうやって頑張れたのは、家族・コーチ・チームメイトの支えや応援があったからです。感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思えます。

とほ間違いありません。指導者はファシリテーターであり、主役は選手であると私は考えます。様々な苦労を乗り越えた選手たちに感謝です。

# 皇后杯

準々決勝 アルビレックス新潟レディース vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース  
 12月19日(土) ユアテックスタジアム仙台

## 皇后杯に参加して

新潟医療福祉大学女子サッカー部 コーチ 林 遼太

新潟医療福祉大学女子サッカー部は、2012年4月に本学強化指定クラブとして発足し、今年で4年目を迎えました。全国各地から集まった約40名の部員は健康科学部健康スポーツ学科に在籍し、スポーツにおける高度な専門的知識と理論の修得を目指しています。

チームは9月に行われた皇后杯北信越予選大会を突破し、第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会への出場を決めました。11月7日にテクノポート福井スタジアムで開催された1回戦では、NGU名古屋FCレディース(東海第2代表)と対戦しました。試合は拮抗した展開続く中、先制点をあげるものの、セットプレーからの失点を許し、延長戦で敗戦。改めて「トーナメント勝負の難しさ」と、小さなミスが勝敗を決めてしまう、「サッカーの厳しさ」を痛感させられる試合でした。今大会を通じてご支援、また温かいご声援を頂きましたご関係者の皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

現在は12月下旬から開幕いたします、全日本大学女子サッカー選手権大会に向けて、さらなるプレーの向上・チームとしての完成度を高めています。皇后杯1回戦で味わった悔しさを次につなげる為、日々のトレーニングから



## 皇后杯を終えて

開志学園JAPANサッカーカレッジ高等部 監督 鈴木 聡

開志学園JAPANサッカーカレッジ高等部は今年で創部3年目であり、皇后杯本大会には初出場でした。名誉あるこの大会に参加することができ、光栄であると同時に、選手やチームにとってすごく良い経験を積むことができる大きなチャンスでした。

結果は0-4。なでしこリーグ2部所属のFC吉備国際大学Charmeにこの結果は妥当かもしれません。ただ、終わったあと選手たちは納得いかない表情。試合に負けたということもそうですが、それ以上にやれたという感触があったのだと思います。十分に通用したという手応えがあったからだと思います。この高いレベルの相手に悔しいと思えるようになったことは、チームとしても、個としても成長している証ですし、選手たちも自分たちが練習してやってきたものを改めて確信できた日だったのではないのでしょうか。

その中で、上のカテゴリーと試合をおこなったからこそ見えた課題があります。その課題を1ずつクリアしていき、1月3日から兵庫県で開催される第24回全日本高等学校女子サッカー選手権大会に向けていきっかけになったと思います。



素晴らしい会場、素晴らしいピッチ、素晴らしい運営、素晴らしい対戦相手、何もかもが素晴らしい経験になり、皇后杯という舞台は、人もチームも成長させてくれる、そんな素晴らしい大会だと実感しました。関係各位の皆様、本当にありがとうございました。